

# 3作品が入賞を果たす

## 岡山商科大学

法学部・経済学部・経営学部の3学部を擁し、社会科学系の総合私立大学として知られる岡山商科大学（岡山市）。同大は、「第1回岡山商科大学動画コンテスト」を開催し、このたび受賞者が決定した。

同コンテストは、授業や部活動、学食などのキャンパスライフに関する動画を募集し、優秀な作品を表彰する同大初の企画。動画は原則15秒以上3分以内となる短編のものを制作し、提出締切日だった7月19日までに数多くの作品が提出された。

なお、6月5・8・11日の三日間には「PC動画ソフト『DaVinci Resolve』を使用した動画の作り方」「オリジナル動画作りの注意点 企画・撮影・編集・発信」「スマホでスタート！お金もかけない未経験者向け動画作成講座」と題する動画制作の基礎やポイントを伝える特別講義が外部講師を招いて行われ、参加した学生たちは自身のオリジナル動画の制作に役立っていた。

厳正なる審査の結果、グラプリには経済学部経済学科4年次の濱浦了輔さんと齋藤瑛士さんの共同作品「それでも前へ」が選ばれた。この作品は、コロナ禍の中で同大に通う学生の通学から帰宅までを描いた動画。BGMで使用されている音楽は心地良く、自転車で帰宅するシーンは空撮するなど、まるで映画のワンシーンのようなクオリティの高い作品に仕上げた。

動画を制作した濱浦さんと齋藤さんは「コロナ禍で多くの人が不安や焦りを感じながら生活していく中で、いまを生きていること、前へ進んでいくことが大切だと思い、この作品ができました」と、コメント。審査員からは「学生が作ったとは思えないクオリティの高さです。映像の雰囲気

映画のようで格好良い」「カメラワークが良く、ピーアール動画らしい作品へ意識して仕上げており、職人的仕事だと高く評価します」「全体の構成や演出・技術など、どれも高いレベルでした。広報としても今後の動画作りをお願

いしたいと思える作品です」など、絶賛の声が相次いだ。また、準グラプリには経済学部経済学科2年次の大西虎ノ進さんと金沢陸哉さん、阿南響さん、渡邊凜友さんの

4人が制作した「コロナ禍で入学した商大生の1年間の生活。」が選出された。この作品は、新型コロナによって登校する機会がほとんどない中で、特に印象に残った大学の場所を紹介した動画。数多くのテロップを用いるなど、学生たちの心や想いを分かりやすく表現した。

奨励賞には経営学部経済学科4年次・山中馨斗さんの「OSU "HORIZONS"」が選ばれた。これは、同大の男子バスケットボール部をよりの多くの人たちに認知してもらうために制作した動画。男子バスケット部が普段どのような練習をどのような雰囲気で行っているのかを、見ている人たちに分かりやすくわかる内容となっている。

3作品とも学生たちの想いや感性が詰まった素晴らしい動画に仕上がっている。興味・関心のある人は、ぜひ同大ウェブサイトで受賞作品をチェックしてみたい。